令和2・3年度「『未来を生き抜く人財育成』学力保障スクラム事業」の取組　C小学校

現状と課題

Ｒ３年度県学調結果から

【第4学年】	国語	算数	努力調整
対象児童	5-C	4-C	3.6
学年平均	6-C	5-B	3.7

※対象児童の学力レベルは学年平均に近いが、学習方略等個別の課題が大きい。

【第５学年】	国語	算数	人的リソース
対象児童	4-A	5-C	2.4
学年平均	6-B	6-B	2.7

※国語の学力の伸びが小さく、県平均を下回っている。特に対象児童の平均は昨年度から変わっていない。

現状と課題をもとにした仮説

- 対象児童を中心に習熟度別のきめ細やかな個別指導を行い、学習支援カルテ「コバトンのびのびシート」の分析をし、得意分野を伸ばすとともに苦手分野を克服することで、学力の伸びを高められるであろう。
- 対象学年を中心に学校全体として認知機能を強化するプリントへの取組や授業での発表・学び合いの時間の確保により、特に努力調整方略の数値を上げることができるであろう。

研修テーマ

「未来を拓くための確かな学力と自立する力を身に付けた児童の育成」

仮説をもとにした取組内容

○全校で授業のスタンダード化を目指し、学習環境や板書、指導の統一を図ることで児童の学習意欲、学力向上につなげる。→「C小スタンダード」の確立

○算数は、習熟度別の５クラスに分けて、少人数での個別支援を重視する。また、毎時間の振り返りを行い、授業の中でアウトプットする場を設定する。

→分からないところを質問しやすい環境をつくるとともに、自力解決や学び合いの活動を通して、「できた」という実感をもたせる。

○ICTを有効に活用する場面を設定することで、思考・判断・表現するツールとして活用させ、学習意欲の向上を図る。

→児童はもとより教員も「いつでも･どこでも･だれでも」という積極的な態度で、ICTを使い、実践的な力を身に付けられるようにする。

○「家庭学習がんばろう週間」を中心とした家庭学習の呼びかけを通して、自主学習の質の 向上を目指す。

→学びのスタイルを確立し学習環境を整えることで、学習の仕方が分かり、主体的に学習する児童を育成する。

事業実施報告

７月１日
○○地区算数・数学教育研究会
（２年生）

10月14日
学力向上推進担当訪問
（4年生・5年生）

11月26日
スクラム事業授業研究会
（4年生・5年生）

12月21･22日
市教委全学調講座（国･算）
（5年生）

現時点での成果

成果①「C小スタンダード」の確立（授業内）

全校で授業のスタンダード化を目指し、学習環境や構造的な板書、指導の統一を図ることで、学びのスタイルを確立し、学習の仕方が分かり、主体的に学習する児童が増えた。

成果③「効果的な『ICT活用』」（授業外）

認知機能を強化するプリントをタブレットに取り込み、朝学習や家庭との双方向型「タブレットタイム」で取り組んだ。また、授業においてもMetaMoji を積極的且つ効果的に使用することにより、課題解決への手助けとなった。

成果②習熟度別５クラスの「算数少人数指導」（授業内）

「コバトンのびのびシート」や単元テストの結果を分析し少人数指導を充実させたり、授業の中で自分の考えをアウトプットする場を設定したりすることで、主体的に学ぶ児童が増えた。

また、ICT(タブレット等)を効果的に使用し、自力解決や学び合いを積極的に行える児童が増えた。

県学調で5年生は、伸びの平均値が4レベルアップし、伸ばした児童の割合は92%であった。

成果④「家庭学習」の質の向上（家庭との連携）

宿題以外の自主学習に取り組む児童が増え、他の学年や友達の自学ノートを参考に、多教科にわたり工夫が見られ、意欲的に自主学習を行う児童が増えた。

家庭と連携し、スクラム対象児童の「家庭学習がんばろうカード」の提出率、目標時間達成率が100%になった。

課題及び次年度に向けて

○認知機能を強化するプリント等、2年間を通して効果的であった取組を引き続き継続して行う。
○調査問題や確認テストなどを活用し、児童の学力の定着や伸びを継続的に見届けていく。
○児童の主体的に学ぶ力を育むために、「主体的・対話的で深い学びの実現 6則」等の手引きをもとに個別の支援を行う。

コロナ対策のため、授業研究会をリアルタイムで配信し、情報を共有できるスマートディスプレイ「ジャムボード」を使って、研究協議を行った。